

10万点を超す生地を収蔵している  
国内最大規模のテキスタイル資料館  
「テキスタイルマテリアルセンター」(岐阜県羽島市)が、国内外の  
来場者数を増やしている。17年度は  
「2000人を超える来場者があつた」(山田幸士岐阜県毛織工業協同組合専務理事)といふ。

今後も「岐阜県だけではなく愛知県尾張地域や一宮地場産業ファッショングラインセンターなど連携し、尾州など国内テキスタイルの活性化に寄与する」としている。

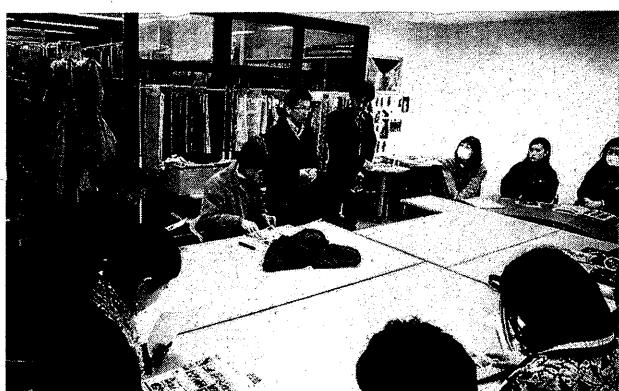
08年の開設から10周年を迎えた。

尾州産地の生地収蔵に繊維組合見本市JFWジャパン・クリエーション(JC)の開発生地を所蔵する過程を通じ、全国の素材収集が加速してきた。地元の尾州産地が得意とするウールや獸毛混だけではなく、綿や麻、シルク、化合織などあらゆる品種の表地、そして裏地やレースなど

の副資材まで所蔵の範囲を広げ、今も生地が集まっている。  
原反見本に加え、スワッチ、欧州など海外のテキスタイル資料などを整備された。

「テキスタイル開発やアパレルデザインのヒントにしたいとして」「口口

## 来場者増えるテキスタイルマテリアルセンター



デザイナーによる産地訪問ツアーも



10万点を超える生地を自由に閲覧できる

## 生地など10万点超を収蔵 行政も協力し訪問が活発化

ミで当センターの存在が広がっているのは、「国内最大級のテキスタイル収蔵の厚みがある」からだ。

地元行政も同センターを産業振興の軸にしたいと乗り出した。羽島市

産業振興部は、地方創生事業の一環として同センターへ岐阜県のテキスタイルメーカーなどを回る産地訪問

「ロコモニ」に加えてネットによる発信

「アパレル業界のデザイナーや販売スタッフなどをつなぐ取り組みが広がっている。

このほど、ウェブサイトを開設したほか、SNSのフェイスブックにもアカウントを設けた。

「ロコモニ」も増やし、今後さらに来場者を増やすとともに、尾州産地との交流を刺激したい」としている。

して、3月に第2回を開催。4月5日に第3回も計画している。この産地訪問ツアには、テキスタイル産地活性化として繊維塾「産地の学校」や「ミユニティースペース「セクリヤード」などを運営している糸偏(富浦晋哉社長)が協力。

同センターをプラットフォームにして、テキスタイル産地とアパレル業界のデザイナーや販売スタッフなどをつなぐ取り組みが広がっている。